

論語（訳文：抜粋）

砂原

受入篇

篇	訳文
第6	2 1. 子曰わく、中人（ちゅうにん）以上には、以て上を語（つ）ぐべきなり。中人以下には、以てこれを語ぐべからざるなり。
第8	1 3. 子曰わく、篤（あつ）く信じて学問を好み、死を守りて道を善くす。危邦（きほう）には入らず、乱邦には居（い）らず。天下道あれば則ち見（あらわ）れ、道なければ則ち隠（かくる）る。邦に道あるに、貧しくして且つ賤（いや）しきは恥なり。邦に道なきに、富て且つ貴（たつと）きは恥なり。
第9	2 3. 子曰わく、後生畏（こうせいおそ）るべし。焉（いづく）んぞ来者の今に如かざるを知らんや。四五十にして聞こゆること無くんば、斯（こ）れ亦た畏るるに足らざるのみ。
第17	2 5. 子曰わく、唯（た）だ女子と小人（しょうじん）とは養い難（がた）しと為す。これを近づくれば則ち不遜（ふそん）なり。これを遠ざくれば則ち怨む。
第17	2 6. 子曰わく、年四十にして悪（にく）まるるは、其れ終わらんのみ。

教訓篇

篇	訳文
第1	8. 子曰わく、君子、重かざれば則ち威あらず。学べば則ち固ならず。忠信を主とし、己に如かざる者を友とすること無かれ、 過ちては則ち改むるに憚（はばか）ること勿かれ。
第1	12. 有子が曰く、礼の用は和を貴しと為す。先王の道も斯れを美と為す。小大これに由（よ）るも行われざる所あり。和を知りて和すれども、礼を以てこれを節せざれば、亦た行われず。
第1	15. 子貢が曰く、貧しくて諂（へつら）うこと無く、富みて驕ること無きは、何如。子曰わく、可なり。未だ貧しくして道を楽しみ、富みて礼を好む者には若かざるなり。子貢が曰く、詩に云う、切するが如く、磋するが如く、琢するが如く、磨するが如しとは、 其れ斯れを謂うか。 子曰わく、賜や、始めて与に詩を言うべきのみ。諸（こ）れに往を告げて来を知る者なり。
第1	16. 子曰わく、 人の己れを知らざることを患えず、人を知らざることを患う。
第1	17. 子曰わく、巧言令色（こうげんれいしょく）鮮（すく）なし仁。
第2	11. 子曰わく、故きを温めて新しきを知る、以て師と為るべし。
第2	17. 子曰わく、由（ゆう）よ、女にこれを知ることを誨（おし）えんか。これを知ると為し、 知らざるを知らざると為せ。是れ知るなり。
第2	24. 子曰わく、其の鬼に非ずしてこれを祭るは、諂（へつら）いなり。 義を見て為ざるは、勇なきなり。
第3	7. 子曰わく、 君子は争う所なし。 必らずや射か。揖讓（ゆうじょう）して降り下り、而して飲ましむ。其の争いは君子なり。
第4	5. 子曰わく、富と貴（たつと）きとは、是れ人の欲する所なり。其の道を以てこれを得ざれば、処（お）らざるなり。貧しきと賤（いや）しきとは、是れ人の悪む所なり。其の道を以てこれを得ざれば、去らざるなり。 君子、仁を去りて悪（いず）くにか名を成さん。君子は食を終うるの間にも仁に違ふこと無し。造次（ぞうじ）にも必らず是に於いてし、顛沛（てんぱい）にも必らず是に於いてす。
第4	8. 子曰わく、朝（あした）に道を聞きては、夕べに死すとも可なり。
第4	15. 子曰わく、参（しん）よ、 吾が道は一を以てこれを貫く。 曾子曰わく、唯（い）。子出ず。門人問うて曰く、何の謂いぞや。曾子曰わく、夫子の道は忠恕（ちゅうじょ）のみ。
第4	17. 子曰わく、賢を見ては齊（ひとし）からんことを思い、不賢を見ては内に自ら省（かえり）みる。
第4	24. 子曰わく、 君子は言に訥（とつ）して、行に敏ならんと欲す。
第4	25. 子曰わく、徳は孤ならず。必ず鄰（となり）あり。
第5	16. 子、子産を謂わく、君子の道四つ有り。其の己れを行うや恭、其の上（かみ）に事うるや敬、其の民を養なうや恵、其の民を使うや義。
第5	26. 顔淵、李路侍（じ）す。子曰わく、盍（なん）ぞ各々（おのおの）爾（なんじ）の志しを言わざる。子路が曰わく、願わくは車馬衣裘（しゃばいきゅう）、朋友と共にし、これを敝（やぶ）るとも憾（うら）み無けん。顔淵の曰わく、願わくは善に伐（ほこ）ること無く、労を施すこと無けん。子路が曰わく、願わくは子の志しを聞かん。子曰わく、 老者はこれを安んじ、朋友はこれを信じ、少者はこれを懐（なつ）けん。

第6	12. 冉求が曰わく、子の道を説（よろこ）ばざるには非ず、力足らざればなり。子曰わく、力足らざる者は中道にして廃す。今女（なんじ）画（かぎ）れり。
第6	19. 子曰わく、人の生くるは、直（なお）し。これを罔（し）いて生くるは、幸いにして免るるなり。
第6	20. 子曰わく、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。
第6	23. 子曰わく、知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ。知者は動き、仁者は静なり。知者は楽しみ、仁者は寿（いのちなが）し。
第6	27. 子曰わく、君子、博く文を学びて、これを約するに礼を以てせば、亦た以て畔（そむ）かざるべきか。
第6	29. 子曰わく、中庸（ちゅうよう）の徳たるや、其れ至れるかな、民鮮（すく）なきこと久し。
第7	1. 子曰わく、述べて作らず、信じて古（いにし）えを好む。窃（ひそ）かに我が老彭（ろうほう）に比す。
第7	6. 子曰わく、道に志し、徳に拠（よ）り、仁に依（よ）り、藝に遊ぶ。
第7	8. 子曰わく、憤（ふん）せずんば啓（けい）せず。悱（ひ）せずんば発せず。一隅（いちぐう）を挙げてこれに示し、三隅を以て反（か）えらざれば、則ち復（ま）たせざるなり。
第7	15. 子曰わく、蔬食（そし）を飯（くら）い水を飲み、肱（ひじ）を曲げてこれを枕とす。楽しみ亦た其の中に在り。不義にして富み且つ貴きは、我れに於いて浮雲（ふうん）の如し。
第7	18. 葉公（ようこう）、孔子を子路に問う。子路対（こた）えず。子曰わく、女（なんじ）奚（な）んぞ曰ざる、其の人と為りや、憤（いきどお）りを発して食を忘れ、楽しみて以て憂いを忘れ、老いの将（まさ）に至らんとするを知らざるのみと。
第7	21. 子曰わく、我れ三人行えば必ず我が師を得（う）。其の善き者を択（えら）びてこれに従う。其の善からざる者にしてこれを改（あらた）む。
第7	27. 子曰わく、蓋（けだ）し知らずしてこれを作る者あらん。我れは是れ無きなり。多く聞きて其の善き者を択びてこれに従い、多く見てこれを識（しる）すは、知るの次ぎなり。
第7	30. 陳の司敗（しはい）問う。昭公（しょうこう）は礼を知れるか。孔子対えて曰わく、礼を知れり。孔子退く。巫馬期（ふばき）を揖（ゆう）してこれを進めて曰わく、吾れ聞くと、君子は党（とう）せずと。君子も亦た党するか。君、呉に取（めと）れり。同姓なるが為にこれを呉孟子謂う。君にして礼を知らば、孰（たれ）か礼を知らざらん。巫馬期、以て告（もう）す。子曰わく、丘（きゅう）や幸いなり、苟（いやしく）も過ちあれば、人必らずこれを知る。
第8	8. 子曰わく、詩に興（お）こり、礼に立ち、楽（がく）に成る。
第8	11. 子曰わく、如（も）し周公の才の美ありとも、驕（おご）り且つ吝（やぶさ）かならしめば、其の余は観るに足らざるのみ。
第8	17. 子曰わく、学は及ばざるが如くするも、猶（な）おこれを失わんことを恐る。
第9	4. 子、四を絶つ。意なく、必（ひつ）なく、固（こ）なく、我（が）なし。

第9	1 1. 顔淵（がんえん）、喟然（きぜん）として歎（たん）じて曰わく、これを仰げば弥弥（いよいよ）高く、これを鑽（き）れば、弥弥堅し。これを瞻（み）るに前に在れば、忽焉（こつえん）として後（しりえ）に在り。夫子、循循然（じゅんじゅんぜん）として善く人を誘（いざな）う。我れを欲するも能（あた）わず。既に吾が才を竭（つ）くす。立つ所ありて卓爾（たくじ）たるが如し。これに従わんと欲すとも雖も、由（よし）なきのみ。
第9	1 3. 子貢が曰わく、斯（ここ）に美玉あり、匱（ひつ）に韞（おさ）めて諸（こ）れを蔵せんか、善賈（ぜんこ）を求めて諸れを沽（う）らんか。子曰わく、諸れを沽らんかな、諸れを沽らんかな。我れ賈（こ）を待つ者なり。
第9	2 2. 子曰わく、苗（なえ）にして秀でざる者あり。秀でて実らざる者あり。
第9	2 6. 子曰わく、三軍も帥（すい）を奪うべきなり。匹夫（ひつぷ）も志しを奪うべからざるなり。
第9	3 0. 子曰わく、知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼（おそれ）ず。
第10	6. 君子は紺緌（かんしゅう）を以て飾らず。紅紫（こうし）は以て褻服（せつぷく）と為さず。暑に当たりては纁（ひとえ）の絺綌（ちげき）、必ず表（ひょう）して出（い）ず。緇衣（しい）には羔裘（こうきゅう）、素衣（そい）には麤裘（げいきゅう）。黄衣（きい）には狐裘（こきゅう）。褻裘（げいきゅう）は長く、右の袂（たもと）を短くす。必らず寝衣（しんい）あり、長（た）け一身有半。
第11	1 6. 子貢問う、師と商とは、孰（いず）れか、賢（まさ）れる。子曰わく、師や過ぎたり、商や及ばず。曰わく、然らば則ち師は愈（まさ）れるか。子曰わく、過ぎたるは猶（な）お及ばざるがごとし。
第12	1. 顔淵（がんえん）、仁を問う。子曰わく、己れを克（せ）めて礼に復（かえ）るを仁と為（な）す。一日己れを克めて礼に復れば、天下仁に歸（き）す。仁を為すこと己れに由（よ）る。而（しか）して人に由らんや。顔淵の曰わく、請（こ）う、其の目（もく）を問わん。子曰わく、礼に非ざれば視ること勿（な）かれ、礼に非ざれば聴くこと勿かれ、礼に非ざれば言うこと勿かれ、礼に非ざれば動くこと勿かれ。顔淵の曰わく、回（かい）、不敏（ふびん）なりと雖（いえど）も、請う、其の語を事とせん。
第12	2. 仲弓（ちゅうきゅう）、仁を問う。子曰わく、門を出（い）でては大賓（だいひん）を見るが如くし、民を使うには大祭に承（つか）えまつるが如くす。己れの欲せざる所は人に施すこと勿（な）かれ。邦に在りても怨み無く、家に在りても怨み無し。仲弓が曰わく、雍（よう）、不敏なりと雖ども、請（こ）う、斯の語を事とせん。
第12	4. 司馬牛、君子を問う。子曰わく、君子は憂えず、懼（おそ）れず。曰わく、憂えず、懼れず、斯れこれを君子と謂うべきか。子曰わく、内に省（かえり）みて疚（やま）しからずんば、夫（そ）れ何をか憂え何をか懼れん。
第12	5. 司馬牛、憂えて曰わく、人皆な兄弟（けいてい）あり、我れ独り亡し。子夏（しか）が曰わく、商（しょう）これを聞く、死生 命あり、富貴 天に在り。君子は敬して失なく、人と恭恭（うやうや）しくして礼あらば、四海の内は皆な兄弟たり。君子何ぞ兄弟なきを患（うれ）えんや。

第12	7. 子貢（しこう）、政を問う。子曰わく、食を足（た）し兵を足し、民をしてこれを信ぜしむ。子貢曰く、必らず已（や）むを得ずして去らば、斯の三者に於いて何（いず）れをか先にせん。曰わく、兵を去らん。曰わく、必らず已むを得ずして去らば、斯の二者に於いて何れをか先にせん。曰わく、食を去らん。古（いにし）えより皆死あり、民は信なくんば立たず。
第12	1 1. 齊（せい）の景公、政（せい）を孔子に問う。孔子対（こた）えて曰わく、君 君たり、臣 臣たり、父 父たり、子 子たり。公の曰わく、善いかな。信（まこと）に如（も）し君 君たらず、臣 臣たらず、父 父たらず、子 子たらずんば、粟（ぞく）ありと雖も、吾れ豈（あ）に得て諸（こ）れを食らわん。
第12	2 1. 樊遲（はんち）従いて舞雩（ぶう）の下（もと）に遊ぶ。曰わく、敢えて徳を崇（たか）くし慝（とく）を脩（おさ）め惑いを弁ぜんことを問う。子曰わく、善いかな、問うこと。事を先にして得ることを後にするは、徳を崇くするに非ずや。其の悪を攻めて人の悪を攻むる無きは、慝を脩むるに非ずや。一朝の忿（いきどお）りに其の身を忘れて以て其の親（しん）に及ばずは、惑いに非ずや。
第12	2 2. 樊遲（はんち）、仁を問う。子曰わく、人を愛す。知を問う。子曰わく、人を知る。樊遲未だ達せず。子曰わく、直（なお）きを挙げて諸（こ）れを枉（まが）れるに錯（お）けば、能く枉れる者をして直からしめん。樊遲退（しりぞ）きて子夏に見（まみ）えて曰わく、嚮（さき）に吾れ夫子（ふうし）に見（まみ）えて知を問う。子曰わく、直きを挙げて諸れを枉れるに錯（お）けば、能く枉がれる者をして直からしめんと。何の謂いぞや。子夏が曰わく、富めるかな、是の言や。
第12	2 3. 子貢、友を問う。子曰わく、忠告して善を以てこれを道（みち）びく。不可（ふか）なれば則ち止（や）む。自ら恥（はずかし）めらるること無かれ。
第13	3. 故に君子はこれに名づくれば必らず言うべきなり。これを言えば必らず行なうべきなり。君子、其の言に於いて、苟（いやし）くもする所なきのみ。
第13	1 7. 子夏、莒父（きよほ）の宰（さい）と為（な）りて、政を問う。子曰わく、速やかならんと欲すること毋（な）かれ。小利を見ること毋かれ。速やかならんと欲すれば則ち達せず。小利を見れば則ち大事成らず。
第13	2 7. 子曰わく、剛毅木訥（ごうきぼくとつ）、仁に近し。
第14	2 5. 子曰わく、古（いにし）えの学者は、己の為にし、今の学者は人の為にす。
第14	3 1. 子貢、人を方（たくら）ぶ。子曰わく、賜（し）や、賢なるかな。夫（そ）れ我れは則ち暇（いとま）あらず。
第14	3 2. 子曰わく、人の己れを知らざることを患（うれ）えず、己れの能（のう）なきを患う。
第14	3 7. 子曰わく、我れ知ること莫（な）きかな。子貢曰く、何為（なんす）れぞ其れ子を知ること莫（な）からん。子曰わく、天を怨みず、人を尤（とが）めず。下学（かがく）して上達す。我れを知る者は其れ天か。
第14	4 4. 子路、君子を問う。子曰わく、己れを脩（おさ）めて以て敬す。曰わく、斯（か）くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て人を安んず。曰わく、斯くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て百姓（ひやくせい）を安んず。己れを脩めて以て百姓を安んずるは、堯（ぎょう）・舜（しゅん）も其れ猶（な）お諸（こ）れを病（や）めり。

第15	3. 子曰わく、賜（し）や、女（なんじ）予（わ）れを以て多くを学びてこれを識（し）る者と為すか。対（こた）えて曰わく、然（しか）り、非（ひ）なるか。曰わく、予れは一（いつ）以てこれを貫（つらぬ）く。
第15	8. 子曰わく、与（とも）に言うべくしてこれと言わざれば、人を失う。与に言うべからざるしてこれと言えは、言（げん）を失う。知者（ちしゃ）は人を失わず。亦た言を失わず。
第15	12. 子曰わく、人にして遠き慮（おもんばか）り無ければ、必らず近き憂い有り。
第15	18. 子曰わく、君子、義以て質と為し、礼以てこれを行ない、孫（そん）以てこれを出（い）だし、信以てこれを成す。君子なるかな。
第15	19. 子曰わく、君子は能なきことを病（うれ）う。人の己れを知らざることを病えず。
第15	20. 子曰わく、君子は世（よ）を没（お）えて名の称せられざることを疾（にく）む。
第15	21. 子曰わく、君子は諸（こ）れを己れに求む。小人（しょうじん）は諸れを人に求む。
第15	22. 子曰わく、君子は矜（きょう）にして争わず、群して党（とう）せず。
第15	23. 子曰わく、君子は言を以て人を挙げず、人を以て言を廃せず。
第15	24. 子貢問うて曰わく、一言にして以て終身（しゅうしん）これを行なうべき者ありや。子曰わく、其れ恕（じょ）か。己れの欲せざる所、人の施すこと勿（な）かれ。
第15	30. 子曰わく、過（あやま）ちて改めざる、是を過ちと謂う。
第15	31. 子曰わく、吾れ嘗（かつ）て終日食らわず、終夜寝（い）ねず、以て思う。益（えき）なし。学ぶに如かざるなり。
第15	32. 子曰わく、君子は道を謀（はか）りて食を謀らず。耕すも餒（う）え其中（うち）に在（あ）り、学べば禄（ろく）は其中に在り。君子は道を憂えて貧しきを憂えず。
第15	36. 子曰わく、仁に当たりては、師にも譲らず。
第15	37. 子曰わく、君子は貞にして、諒（りょう）ならず。
第15	38. 子曰わく、君に事（つか）えては、其の事を敬（けい）して其の食を後（あと）にする。
第16	5. 孔子の曰わく、益者三楽（さんらく）、損者三楽、礼楽（れいがく）を節せんことを楽しみ、人の善を道（い）うことを楽しみ、賢友多きを楽しむは、益なり。驕楽（きょうらく）を楽しむ、佚遊（いつゆう）を楽しむ、宴楽（えんらく）を楽しむは、損なり。
第16	6. 孔子の曰わく、君子に侍（じ）するに三愆（さんけん）あり。言（げん）未だこれに及ばずして言う。言これに及びて言わざる、これを隠と謂う。未だ顔色を見ずして言う、これを瞽（こ）と謂う。
第16	7. 孔子の曰わく、君子に三戒（さんかい）あり。少（わか）き時は血氣未だ定まらず、これを戒むること色に在り。其の莊なるに及んでは血氣方（まさ）に剛（ごう）なり、これを戒むること鬪（とう）に在り。其の老いたるに及んでは血氣既に衰う、これを戒むること得（とく）に在り。
第16	10. 孔子の曰わく、君子に九思あり。視（み）るには明を思い、聴くには聡（そう）を思い、色には温を思い、貌（かたち）には恭を思い、言（げん）には忠を思い、事には敬を思い、疑わしきには問を思い、忿（いかり）には難を思い、得（う）るを見ては義を思う。

第17	2. 子曰わく、性、相（あい）近し。習えば、相い遠し。
第17	6. 子張、仁を孔子に問う。孔子の曰わく、能く五つの者を天下に行なうを仁と為す。これを請（こ）い問う。曰わく、恭寛信敏恵なり。恭なれば則ち悔られず、寛なれば則ち衆を得、信なれば則ち人任じ、敏なれば則ち功あり、恵なれば則ち以て人を使うに足る。
第17	17. 子曰わく、巧言令色（こうげんれいしょく）鮮（すく）なし仁。
第17	24. 子貢問いて曰わく、君子も亦（ま）た悪（にく）むこと有りや。子曰わく、悪（にく）むこと有り。人の悪を称する者を悪（にく）む。下（しも）に居て上（かみ）を誣（そし）る者を悪（にく）む。勇にして礼なき者を悪む。果敢（かかん）にして窒（ふさ）がる者を悪む。曰わく、賜（し）や亦た悪むこと有りや。徹（かす）めて以て知と為す者を悪む。不遜（ふそん）にして以て勇と為す者を悪む。訐（あば）きて以て直と為す者を悪む。
第19	9. 子夏が曰わく、君子に三変あり。これを望めば儼然（げんぜん）たり、これに即（つ）けば温なり、其の言を聴けば厲（はげ）し。
第19	10. 子夏が曰わく、君子、信ぜられて而（しか）して後（のち）に其の民を勞す。未だ信ぜられざれば則ち以て己れを厲（や）ましむと為（な）す。信ぜられて而して後に諫（いさ）む。未だ信ぜられざれば則ち以て己を諂（そし）ると為す。
第19	21. 子貢が曰く、君子の過（あやま）ちや、日月の蝕（しょく）するが如し。過つや人皆なこれを見る、更（あらた）むるや人皆なこれを仰ぐ。
第20	4. 子張が曰わく、何をか四悪と謂う。子曰わく、教えずして殺す、これを虐（ぎゃく）と謂う。戒めずして成るを觀る、これを暴（ぼう）と謂う。令を慢（ゆる）くして期を致す、これを賊と謂う。猶（ひと）しく人に与うるに出内（すいとう）の吝（やぶさか）なる、これを有司（ゆうし）と謂う。
第20	5. 孔子の曰わく、命（めい）を知らざれば、以て君子たること無きなり。礼を知らざれば、以て立つこと無きなり。言を知らざれば、以て人を知ること無きなり。

君子と小人

篇	訳文
第2	14. 子曰わく、君子は周して比せず、小人は比して、周せず。
	君子は幅広く親交をもち、一部の人と馴れ合わない。小人は、狭い範囲で馴れ合って広く人と親しまない。
第4	11. 子曰わく、君子は徳を懐（おも）い、小人は土（ど）を懐う。君子は刑を懐い、小人は恵を懐う。
	君子はより善く生きるにはどうするかを考えるが、小人は安楽な生活する事を考える。君子は過ちを犯せば罰がある事を意識し身を正す。小人は物質的な幸運を望む。
第4	16. 子曰わく、君子は義に喩（さと）り、小人は利に喩る。
	君子は筋道の義で物事を図り、小人は損得で図る。
第6	13. 子、子夏に謂いて曰わく、女（なんじ）、君子の儒（じゅ）と為（な）れ。小人の儒と為ること無かれ。
	君子を磨く学者となれ、単に知識を誇り有名になりたがる小人の学者には成るな。
第7	36. 子曰わく、君子は坦（たいら）かに蕩蕩（とうとう）たり。小人は長（とこしな）えに戚戚（せきせき）たり。
	君子は心が伸び伸びしているが、小人は何時でもくよくよ思い悩んでいる。
第12	16. 子曰わく、君子は人の美を成す。人の悪を成さず。小人は是れに反す。
	君子は人の美点を励まして向上させ、悪いところは正して無くさせる。小人は逆である。
第13	23. 子曰わく、君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず。
	君子は和を強調するが連まない、小人は好く連むが協調性はない。
第13	26. 子曰わく、君子は泰（ゆたか）にして驕（おご）らず。小人は驕りて泰ならず。
	君子は落ち着いてゆったりとして威張らない。小人は威張っていて落ち着かない。
第14	24. 子曰わく、君子は上達す。小人（しょうじん）は下達（かたつ）す。
	君子は高尚な事、重要な事に詳しくなり、小人はどうでも良いことに詳しい。
第15	2. 陳（ちん）に在（いま）して糧（りょう）を絶（た）つ。従者（じゅうしゃ）病みて能（よ）く興（た）つこと莫（な）し。子路慍（いか）って見（まみ）えて曰わく、君子も亦（ま）た窮（きゆう）すること有るか。子曰わく、君子固（もと）より窮（きゆう）す。小人（しょうじん）窮（きゆう）すれば斯（ここ）に濫（みだ）る。
第15	34. 子曰わく、君子は小知すべからずして、大受すべし。小人は大受すべからずして、小知すべし。
	君子は小さい仕事では本当の力を出せないが、大きい仕事では本領を発揮する。小人は大きい仕事は出来ないが、小さい仕事では力を発揮する。
第16	8. 孔子の曰わく、君子に三畏（さんい）あり。天命を畏（おそ）れ、大人（だいじん）を畏れ、聖人の言を畏れる。小人は天命を知らずして畏れず、大人に狎（な）れ、聖人の言を侮（あなど）る。
第17	23. 子路が曰わく、君子、勇を尚（とうと）ぶか。子曰わく、君子、義以て上（かみ）と為す。君子、勇ありて義なければ乱を為す。小人（しょうじん）、勇ありて義なければ盗を為す。
第19	8. 子夏が曰わく、小人の過（あやま）つや、必らず文（かぎ）る。